

平成30年度第3回市民と市長の対話集会

# 市長と語ろう！

## ほっとミーティング

テーマ ひらつかの「子育て・高齢福祉・安心安全」

### 開催結果報告書

- 1 開催日時 平成30年（2018年）8月29日（水）  
午後7時から午後9時まで
- 2 開催場所 金田公民館 2階集会室
- 3 参加者 6人 傍聴者 20人



ほっとミーティングの様子

## 4 市長あいさつ

皆さんこんばんは。今日は暑い中、「市長と語ろう！ほっとミーティング」に御参加いただき誠にありがとうございます。また、皆さんにはそれぞれの立場で、地域また市内のまちづくりに尽力いただいております、重ねて御礼を申し上げます。

ほっとミーティングは、地域の皆さんのお話を伺い、御意見や御提案を市政に反映することを目的とし、取り組んでいます。平成23年、市長に就任した一期目は東日本大震災が発生した直後だったこともあり、安心安全をテーマとした対話集会を行いました。翌年は、それぞれの地区の魅力を活かすような意見を伺うため、まちづくりをテーマとして実施しました。

平成27年、二期目以降は、今後目指すまちづくりの計画として策定した「ひらつかNEXT」を基にした対話集会を実施しています。

御存じのとおり、全国規模で少子高齢化が進み、人口が減少しています。本市も例外ではなく、行政運営が継続できるかどうか厳しい時代を迎えています。本市では、平成22年11月の26万863人をピークに人口が減っている状況です。ここ数年で、人口は戻りつつあるものの、依然として厳しい状況です。神奈川県も、来年をピークに人口が減っていくのではないかと聞いています。

国からは、自治体が存続するため、それぞれの地域で抱えている課題を踏まえ、将来を見据えた戦略をたてるように、との指示がありました。

そこで、平塚市は今後目指すまちづくりの計画として、新たな総合計画「ひらつかNEXT」を策定しました。計画の重点施策を、「強みを活かしたしごとづくり」と「子どもを産み育てやすい環境づくり」、「高齢者がいきいきと暮らすまちづくり」、「安心・安全に暮らせるまちづくり」として、このほっとミーティングでは、「子育て・高齢福祉・安心安全」をテーマに、市民の皆さんから率直な御意見を伺って市政に反映したいと考えていますので、よろしく願います。

## 5 主なミーティングの内容

### ①安心安全について

#### 【参加者】

今年4月から地域で防災会を発足させ、地域防災に関わっています。防災や減災への啓発や防災訓練を通して、防災意識を高めるよう活動しています。

先日の西日本豪雨では多くの被害が発生しましたが、地理的な特性を考えると、金田地区でも起こりうると考えています。金田地区は、金目川と鈴川に挟まれた土地であり、金目川は川底が平地より高い天井川となっている点など、水害に見舞われる可能性が高いのではないのでしょうか。実際に、昭和13年には金目川や鈴川などが決壊し、多くの地域が水に浸かっています。

平塚市の発行している洪水ハザードマップにおいて、金田地区では場所によって、5メートルの浸水予測があります。長瀬のポンプ場では周辺が冠水する可能性がありますし、古川排水は鈴川への流入が困難となった場合、バックウォーター現象が起こるかもしれません。

災害への対応としては、自助と共助、公助のそれぞれをバランスよく進めていかなければなりません。自助としては、各自がマイタイムラインを作成し、適切なタイミングで避難行動をとること。共助としては、日常的な啓発活動を通して、地域住民同士が助け合いの意識をもつこと。公助としては、河川の堤防強化はもちろんですが、市と地域の情報交換を密にし、公民館以外でも一時的に避難できる施設を確保していくなどの努力が必要になります。地域だけでは実現が難しいことが多いため、市には地域の後ろ盾として、しっかり協力をお願いしたいと考えています。

#### 【参加者】

先月、台風があった際、避難に関する情報が出たため、要支援者の方に電話連絡をしたのですが、強い雨が降り出している段階では、避難場所まで行くことができないと避難を拒否する方が多くいました。しかも、避難場所である金田小学校は川を越えていかなければならないため、高齢者の方が現実的に避難するのは難しい面があります。一時的な避難場所として、金田公民館に来ていた方もいたようですし、その時の状況に応じて、適切な避難行動が求められていると思います。

まずは、余裕を持って避難できるよう、かなり早い段階で情報提供をしていただきたいと思います。また、被害が想定されるのであれば、晴れているうちから避難できるように避難所の準備をしていくことで、多くの要支援者を救うことができると思います。

**【参加者】**

避難指示が出た場合、民生委員として要支援者の方々に避難の呼びかけをしますが、家は安全だからと避難しない方が多いです。金田小学校まで行くのに身体が不自由な方もいますから、避難したくても避難できない方も多くいるのではないのでしょうか。避難指示よりも早い段階で、一旦公民館に集まってもらうようにしてもいいのではと考えています。

**【参加者】**

防災意識が低い方がいるのも事実です。しかし、避難場所である金田小学校が田畑の真ん中にあり、激しい暴風雨により道路が冠水すると想定される中で実際に避難できるかという点で難しいのではないのでしょうか。

そもそも、避難場所は1か所ではなく、一時的な避難場所を複数確保できるような仕組みがあれば、避難しやすくなると思います。市が積極的に仲介いただければ、迅速な避難が可能ではないのでしょうか。

**【参加者】**

ある地域では、高齢者を見守る担当者が具体的に決まっていると聞きました。これからは、そうした仕組みもあってもいいのではないのでしょうか。

**【参加者】**

自治会や民生委員、町内福祉村、長寿会などが、地域の問題について危機感をもって考えていると思います。自助や共助、公助を進めていくことで、災害対策だけでなく、高齢福祉の問題についても、市と連携を取りながら、考えていかなければなりません。

**【参加者】**

平塚市避難行動要支援者登録制度は、うまく機能していない印象があります。民生委員としても見直しのお話をしているのですが、各地区によって、勝手に走り出してしまっているところもあります。もっと気楽に声掛けできるような仕組みになれば、支援をする側、支援を受ける側が使いやすい制度になるのではないのでしょうか。それぞれがお互い様という基本理念を持つことが大切です。

**【市長】**

皆さんの水害に対する意識の高さに感謝すると共に、地域に対する現状の課題を投げかけていただき、ありがとうございます。

全国的に自然災害が相次いで発生しています。今年7月の西日本豪雨では、広島県や岡山県を中心に土砂崩れや浸水等で大きな被害が出ました。災害に対して、大丈夫だろうという思い込みは禁物です。今までの経験からの過信が、予想をはるかに超える災害に対応できないことがあります。

本市でも先日の集中豪雨の際、避難準備・高齢者等避難開始の情報を早い段階でお知らせしました。河川の増水状況を含め、様々な情報を勘案したうえで、

高齢者等の方々が早めの避難行動をとれるよう対応しました。各自治体においては、最終的に空振りになってしまう可能性があっても、比較的早い段階で情報の伝達を進めていこうと考えています。金田地区では、金田小学校への避難者が3人、金田公民館への避難者が7人と聞いています。大きな被害は無かったものの、万が一のときのためにも、情報伝達の徹底を進めていきたいと考えており、皆さんも早めの行動を心掛けていただきたいと思います。

水害対策としては、雨水を一時的に貯めるための公共下水道管である貯留管があります。しかし、現状では1時間に50ミリ程度の雨量を想定しており、これ以上の集中的な大雨が降った場合、雨水排水能力を上回ることになります。すぐに対応することは難しいのですが、多くの雨量に対応できるよう貯留管等の整備を検討していくことも考える必要があります。

金田地区は金目川と鈴川に挟まれている地域です。それぞれの川である程度の水量をカバーできなければ、街中に浸水する可能性があります。4年前には金目川の土手が崩れたことがありました。その時も、上流で100ミリ近い大雨があり、川が水量に耐えられない状態でした。

神奈川県に対しては浚渫を要請しています。河川に堆積した土砂を取り除くことで流れる水量を確保し、浸水のリスクを減らすことが安心安全につながります。神奈川県の計画としては、順次計画的に浚渫していく意向ですが、まだまだ追いついていない現状です。市としては引き続き、強く要請していきます。

神奈川県は、全体の地域で浚渫を進める必要があるとし、今すぐの対応は予算を含めて厳しいということです。ですから、効果的な避難方法等のソフト対策をお願いしたいという要望をいただいています。ハード対策については、神奈川県と平塚市が連携した上で、しっかりと水が流れる環境づくりを整備していきたいと考えています。

平成21年に作成した平塚市洪水ハザードマップでは、浸水したエリアの中心に金田小学校がありました。避難場所として最適なのか、というお声をいただいています。具体的にどこが浸水して、どこへ避難するのが効果的なのか再度検討していく必要があります。

なお、今年6月に追加公表された相模川水系や、金目川水系の洪水浸水想定を反映した洪水ハザードマップを今年度中に全戸配布する予定です。雨がどのくらい降ると、実際にどのくらい溜まるのかという想定を周知したいと考えています。

また、防災行政用無線の放送に連動して起動する防災ラジオを新たに導入します。年内を目標に希望者に有償配布するほか、自治会や公共施設に改めて配布する予定です。

過去、本市では相模川の堤防が決壊して、氾濫したことがあります。現在は相模川の右岸側の堤防の整備が完了しています。もちろん、それによって絶対に安心であるというわけではないのですが、最低限の整備ができています。ですから、今後、金目川についても堤防の整備ができるよう、引き続き働きかけをしていきます。

また、旭地区に河内川がありますが、大雨があるとすぐに水位が上がってしまつて、金目川に向けてスムーズに水が流れないことがあります。一時的に水が逆流してしまうバックウォーター現象が発生している可能性があります。そのため、古川排水でもそうした可能性を検証し、安全性を確保しなければなりません。東中原地区では逆流を防止するため、フラップゲートを整備し、緊急時のため、土のうステーションを作るなどの対応をしています。

マイタイムラインという考え方についても、皆さんの意識を高めるためにも、自治会を通してお願いしたいと考えています。通常のタイムラインは、災害発生予測の72時間前なのですが、各御家庭の事情によって、余裕をもった準備をするための設定を考えていくことが重要だと思います。

一時的な避難場所の指定が実現できれば、避難しやすい環境づくりに寄与することができます。津波に関しては、自治会と建物所有者、市で協定を結ぶことができますから、こうした指定をすることが可能かどうか検討させていただきたいと思います。

長瀬のポンプ場については、どのくらいの水量に耐えられるのか分からないのですが、今後の大雨を予測したうえで、将来的な下水道計画に反映していきたいと思います。

#### 【参加者】

危ないので避難してください、だけでは、なかなか皆さん避難してくれない。なぜ避難しなければならないのかということを確認してもらう必要があります。鈴川には水位計がありますから、具体的な水位や危険水域を超える予測などの具体的な詳細を伝えるようにしないと、緊急性を理解いただけない。市には避難訓練だけでなく、定期的に地域に入っていただいて話し合う機会を作っていただきたいです。

#### 【市長】

課題を捉えて的確に行動するためには、情報共有が必要となります。御意見いただいた内容については、防災、消防、土木のそれぞれの担当に伝えたいと思います。より具体的な対応をしていかなければと考えています。地域防災については、市の担当とともに皆さんの意見を伺いながら、より具体的な対応が必要です。自治会や自主防災組織、民生委員の方などとも、避難準備等に関する情報共有を進めなければなりません。

【参加者】

河川のライブカメラの映像が不鮮明であるため、もっと水位の状況がわかりやすいようであれば、危機感が伝わるのではないのでしょうか。

【市長】

神奈川県で管理していますが、鮮明であれば、現状を把握しやすくなります。御意見については、神奈川県には伝えていきたいと思えます。

**担当課回答**（集会后、次のとおり担当課に確認しました。）

**一時避難場所の確保について**

御要望いただいた一時（いつとき）避難場所は、地域住民が災害時に集まり、一時的な避難や被害状況の把握、安否確認などの活動を行う場所で、地域と民間施設等が自主的に決めて協定なども結んでいます。

地域の災害リスクや実情に応じ、地域独自で一時（いつとき）避難場所を確保することは可能となりますので、必要に応じて災害対策課まで御相談ください。

（事務担当は災害対策課政策担当）

## ②高齢福祉について

【参加者】

民生委員を務めており、高齢者の方々からよくお困りごとを聞きます。お困りごとで多いのは、日常生活における買い物とごみ捨てです。

介護保険制度で対応できない支援については、町内福祉村が担っています。しかし、高齢化が進んでいくにあたり、支えきれなくなります。地域のことは地域で対応するのは当然ですが、すべてには対応できなくなる懸念があります。

市としても、そうした対策に本腰を入れていただきたいです。例えば、ごみ捨てについては戸別回収を進めていくなどの対策があります。支えきれないものが、末端である町内福祉村に押し付けられないよう、考えていただきたいところです。

【参加者】

金田地区町内福祉村は、平成15年2月1日、平塚市で4番目の福祉村として発足しました。現在、ボランティアは86名おり、高齢者が生き生きと生活できるよう、ふれあいサロンと見守り支援、相談の三つの事業を柱に活動しています。一番の課題は、公民館の管理人宿舎を使用している拠点の手狭である点です。50名程の参加者のある体操については、公民館の集会室等をお借りしている状態です。

また、ボランティアの平均年齢は70歳代半ばです。できることをやっていますが、高齢化によって、活動に限界がくると思います。

町内福祉村の拠点は、8畳程の広さしかありません。地域のサロンを開くにあたって、もう少し広げていただきたい。地域の高齢者やお子さんを含めた、憩いの場となるには、ある程度の広さを確保したいというのが切実な思いです。

子育てサロンをやっていますが、毎年初めに計画を提出することで、市から専門家を派遣してもらえます。同じように、高齢者の知識向上のためにも、専門家に来てもらって、サロンで話をさせていただく機会があればありがたいです。高齢者でも学ぶことによって、意識が変わってくると思います。

#### 【参加者】

地域福祉の拠点としては、ある程度の広さがほしいところです。自治会館や公民館を上手く活用しながら、様々なメニューで活動しています。今後の活動の充実を考えると、広さの問題は切実です。

金田保育園の跡地については、ここに広い建物を建ててほしいというわけではなく、一時の避難場所として、公園を作ってみてはどうでしょうか。いずれにしても、地域で何かを作っていくというのが難しい以上、市でなんとかしていただきたいところです。

#### 【市長】

まずは、金田地区町内福祉村の皆さんにおかれましては、様々な活動に尽力いただいております。改めて感謝いたします。私も度々、サロンが開催されている拠点にお伺いしています。その際、活動スペースに関する御意見をよく聞いています。解決にあたっては、拠点として使用できる建物があるかどうか、現実的に可能な方法を模索していくようになると思います。

跡地利用の件ですが、金田保育園の跡地は現在更地になっています。元々、既存の建物を有効活用したいという地域の意見がありましたが、耐震基準を満たしていないことから、取り壊しをした経緯があります。

その後、当時の自治会に対しては、地域で自治会館を建築するのであれば、補助ができるとお伝えしていました。更地になった以降、金田地区の資金計画等、具体的なことは伺っていないのですが、計画は継続しているのでしょうか。

#### 【参加者】

計画自体は白紙となっています。実際、金田地区で資金を集めるのは、非常に厳しいです。当時は自治会と社会福祉協議会で負担の話もありましたが、防災対策の充実を図っていく必要もあることから、立ち消えになってしまったようです。いずれにしろ、地域で資金を用意したうえで自治会館を建てることは不可能です。ついては、市として、町内福祉村の拠点の狭さを解消するため、跡地を含めた、新たな拠点場所の確保を検討してもらえるとありがたいです。

## 【市長】

跡地を利用して新たな拠点を確保することについては、改めて確認し、市でできることがあるのか検討していきます。この場で約束することはできないのですが、こういった選択肢があるのか、担当課に伝えます。

横内地区の場合は、酒屋の空き店舗を改装して、拠点を作った経過がありますから、金田地区にも、活用できる土地や建物があるのかどうか検討するのも一つです。また、他の建物を使っていけるのかなど、改めて課題を整理しながら、検討させてください。

介護予防・日常生活支援総合事業により、地域における支援を町内福祉村で担っていただいています。公的制度の狭間となるような支援まで町内福祉村で対応いただき、ボランティアに負担がかかっていることは報告を受けています。

他の町内福祉村についても、次世代の担い手をお願いするのが大変だという報告をいただいています。市としても地域の担い手の育成については、地域と連携をした上で、将来を見据え、本腰を入れる必要があると考えます。

サロンに専門家として、例えば、保健師や栄養士を派遣することは可能です。地域包括支援センターをとおして御相談いただければと思います。

町内福祉村は市内に18か所あり、金田地区町内福祉村は先進的な存在として、地域福祉を引っ張っていただいています。拠点の問題等、課題が多くありますが、市として出来るかぎりの支援を検討していきたいと思っています。

## 【参加者】

地域の皆さんが気軽に立ち寄れる場所がほしいということです。各自治会で定期的にサロンを開いています、ほぼ常時オープンしているような場所があることが理想です。そうした地域のたまり場があることで、地域の活動が盛り上がり、活性化につながっていくのではないのでしょうか。

## 【市長】

高齢者の方の買い物については、不便を無くすためにも、地域の中で買い物がしやすい環境づくりを進めていく必要があります。金田地区では、スーパーの移動販売を展開いただいている部分もありますが、安定した買い物が可能である仕組みづくりをしていかなければなりません。

ごみ出しについては、福祉収集を依頼に応じて現在やっているところですが、戸別収集について廃棄物対策審議会から答申を得ており、今後はモデル地区を設けて社会実験を予定しています。

買い物やごみ出し、交通、医療などの日常生活全般を含めた地域包括ケアという枠組みをしっかりと地域ごとに確立させたいと考えています。その中で、町内福祉村は地域福祉の根幹を担っていただいていますので、市としても連携した上で支援をしていかなければならないと考えています。

**担当課回答**（集会後、次のとおり担当課に確認しました。）

#### 町内福祉村の拠点について

金田地区町内福祉村の拠点については、開設から年数を経て福祉村活動が活性化するにつれ手狭になっていることや、老朽化していることなどを本市も課題として捉えています。

その他いくつかの町内福祉村からも同様の御意見をいただいておりますが、平成27年11月に策定しました公共施設等総合管理計画に基づき、原則、新たな施設建設を抑制しています。従いまして、本市が町内福祉村の活動拠点を新設することは非常に困難です。

町内福祉村の拠点は、公共施設の活用を優先しているところですが、地域の実情によりそれが難しい場合には、民間借家を借り上げて活動拠点とすることも可能です。

いずれにしましても、今後も地域福祉の推進が十分に図れるよう、町内福祉村運営協議会の御意見を伺いながら、コスト面にも考慮し、検討していきますので御相談ください。

（事務担当は福祉総務課福祉総務担当）

### ③子育てについて

意見なし

## 6 市長によるまとめ

今日は本当にありがとうございました。町内福祉村の拠点に関する課題など、今すぐ解決できる方策を提示することができなくて申し訳ありません。いただいた真摯な御指摘については、担当課に伝え、必要に応じて対応をしていきたいと考えています。

いずれにしろ、地域において住みやすい街づくりを目指していますので、交通や医療など、地域包括ケアシステムを整備することで、一つずつ解決を図っていきたいと思います。

地域の皆さんが、平塚のまちづくりのため、日々活動されていることに感謝申し上げます。本日は本当にありがとうございました。

## アンケート結果報告

【アンケート回答数 18件】

問1 市長の説明や市長との対話はいかがでしたか。

よかった	14人
まあよかった	2人
どちらともいえない	2人
あまりよくなかった	0人
よくなかった	0人
回答なし	0人

問2 本日の「ほっとミーティング」の御感想について

- ・なかなか良かった。市長の真摯な態度、説明が良かった。
- ・町内福祉村の活動のすごさに驚いた。災害対策がスムーズに進めば良いと思いました。
- ・それぞれの現状を話し合え、よりよい活動ができる方向にいければと感じています。
- ・市への要望は「してくれ」ではなく、自分が「する」という意識をもたなければ、解決しないと思いました。
- ・町内福祉村を少しでも広いスペースで展開してほしいです。
- ・私たちが日頃、狭い場所で活動していて困っていることは、市長さんに届いたと思います。良い方向に行くよう願っています。
- ・地域住民のためにいろいろな要望がありますので、出来る限り市で力になっていただければありがたいです。
- ・町内福祉村の拠点をもう少し広くしていただきたい。
- ・町内福祉村をよろしく願っています。
- ・市からの専門職の派遣について支援いただきたい。
- ・各自治会長が出席しなかったのは残念です。
- ・私たちの考えが市長さんに伝わったような気がします。後は結果が市民に伝わるように進めてほしい。
- ・声が聞きとりにくかった。少しでもいいので、休憩時間がほしかった。
- ・金田地区は金目川が氾濫した場合、歩いての避難が不可能であるため、ゴムボート等の備えも必要だと感じた。
- ・地域防災や町内福祉村の拠点などの課題については、国の施策によって、翻弄されていることなど、実態が明らかになって良かったのではないかと。